

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑬【地域づくり】 郷土の美しい自然、伝統行事・郷土芸能、温かい人のつながりのある社会、安全なまちを願い、地域づくりにかかわる。	総合的な学習の時間

【題材】

- ①復興ポスターの作成
- ②大石虎舞の継承

【対象】

全校生徒、地域との交流、他地域への発信

【実践の概要・詳細①】

〈復興ポスターの作成〉

震災後の平成23年度からニコンの協力で実施し、今年度で4年目である。

全校生徒にひとり1台のカメラを配布し、テーマを決めて写真を撮り、題と説明文をつけたポスター作りを行っている。

今年度は「感謝・感動、My favorite」と「自由テーマ」（昨年度は「感謝・感動、STORY、〇〇の一步」）で震災から復興への過程で感じたこと、考えたことの記録と発信を行う活動を行っている。

作成したポスターは文化祭で展示し、終了後は仮設校舎の壁面に常時掲示（現在約400枚）している。来客や支援者の来校時に自由に見学できるようにしている。

また、ニコンの協力により今年度は、仙台・銀座・柏においても展示スペースをお借りし発信している

【実践の概要・詳細②】

〈大石虎舞の継承〉

今年度から大石虎舞組や唐丹公民館の協力で3年生を中心に取り組んでいる。

震災後は大石虎舞も活動が休止し、発表の場が失われていたが、三陸鉄道南リアス線開業に合わせ郷土芸能祭が実施されて復活した。

以前は50名以上で活動していたが、現在は20名程度で平均年齢も60歳以上、地域には中学生の在籍がなく後継者も不足していた。勇壮で力強い大石虎舞を継承し、お世話になっている地域の皆さんに披露することで「感謝」と「元気」と「復興への祈り」を届けたいと考え取り組んだ。

毎週、大石地区に3年生が出向いて指導を受け文化祭で発表、地域の神社への奉納、地域行事でも披露した。並行して、3年生が下級生への伝承も行ってきた。



父は語る

憧れの存在 撮影：星俣梨恵
 「今一生懸命やったことは、絶対将来に繋がる」試合で負けたときに父が言った言葉です。この言葉のおかげで、今を大切に生きようと思うことができました。この言葉を胸に最後の中絶体、優勝を目指します！



これからもよろしく

憧れの格闘 撮影：鈴木雄斗
 このグローブは、ぼくが6年生のときに買ってもらったグローブです。これからも練習や試合で使わせてもらいます。先輩が型をつけてくれたのでとても使いやすいです。これからも大切に使います。



復活の三陸鉄道

三鉄への思い 撮影：甲斐陽人
 この三鉄は、震災まで利用してくれた人たちにとってなくてはならないものでした。しかし、震災が起きてからなかなか復旧せず2年弱の月日が経ちました。そして、この3年目三鉄が復活しました。これから、さらに活気づいてほしいです。

〈生徒の感想①〉

- ◇他の人にとったら些細なことかもしれないけれど、自分にとったら大事なことを感じる事ができた。
- ◇家族や地域とのつながりで、自分が思っていることをポスターに表現できた。
- ◇今の唐丹が、震災当時からどこが復興してきたのかを見つける事ができた。これからも続けていきたい。

【授業の展開①】 〈復興ポスターの作成〉

内容	主な活動
写真撮影	テーマの構想 夏季休暇中の写真撮影
ポスター作製	写真選定と説明文の検討 展示作品の選択
地域等への発信	校内・文化祭・公民館での展示、 ニコン展示会（仙台・銀座・柏）



【授業の展開②】 〈大石虎舞の継承〉

内容	主な活動
郷土芸能の継承	大石地区へ出向いての練習 (週1回、3年生全員)
郷土芸能の発表	文化祭での発表 地域行事等での発表
郷土芸能の伝承	3年生から下級生への伝承活動



〈保護者の感想〉

- ◇今年は大石虎舞が加わったことで、とても盛り上がり最後まで楽しい文化祭でした。久々に見た虎舞は桜祭りを思い出し感動しました。さらにそれを踊り、舞う子どもたちの一生懸命な姿にまた感動し、ぜひ長く続けてほしいと思いました。
- ◇子どもたち自身がカメラをとり写真を通じて発信する写真展は唐丹中の記録となり、残してほしいと思うので、ずっと続けて頂きたいと思います。
- ◇毎年のことですが…泣きました。写真展で泣かされ、大石虎舞で泣き…反則です…ハンカチでは足りません。子どもたちは先生方や地域の方々に守られて成長させてもらっているなあと感じながら見ました。



〈生徒の感想②〉

- ◇虎舞を踊ったあとは、地域のつながり、温かさを感じました。
- ◇大石の方や仮設のおばあちゃん、地域の方々がいてこそこの虎舞だと思った。
- ◇虎舞で、初めて地域とつながれた気がしました。
- ◇虎舞に取り組むことで、地域の人たちが笑顔になってくれたことがすごくうれしかったです。

〈まとめ〉

①復興ポスターの作成

- ・故郷の復興の様子を、自分で「見る・感じる・記録する・創造する」活動が続けることで、将来への願いや生き方を考える機会となった。
- ・年度ごとに生徒の考え方や視点の変化が見られ、被災地の状況や想いを発信することができた。

②大石虎舞の継承

- ・学校（全校活動）、指導者（後継者育成）、保護者（子どもの活躍の場）、地域（守りたい伝統）のニーズが一致した取り組みを行う事で、様々な方々の「積極的な支援」や「絆を強める」活動となった。
- ・生徒が地域の方から直接指導を受けることで、主体的に取り組む責任を持って受け継いでいこうとする意識や態度を身につけることができた。